

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
活動日時：令和6年12月9日 晴れ
午前中

クラス名：うさぎ組（2歳児クラス）
年間テーマ：砂水遊び

＜テーマの設定理由＞テーマ 砂遊び

園庭の砂が増え、築山が二つ増える。ダイナミックに遊べるようになったので感触を楽しみながら遊ぶことができるようになった。砂が増えたことで子どもたちはどんな反応をして遊んでいくのか見ながら、遊びを広げていく。

＜活動スケジュール＞

1年を通して砂水遊びを継続的に取り組んでいる。

砂が増えたこの日は、園庭の変化に気付いた子どもたちの遊びの姿を見ながら、砂水遊びに取り組んだ。

＜活動のために準備した素材や道具＞

砂・水・スコップ・バケツ・板 等

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

朝から園庭の砂が増えていることに気づいて「早く遊びたい！」という声が多かった。子どもたちは、「跳んだらふかふかかな」「砂がさらさらで気持ちよさそう」と言ってテラスから目の前の築山にジャンプをして園庭に出ていた。崩れていく砂の感触に「楽しい」「トランポリンだ」とその場で何度もジャンプをしていた。他にも2か所の築山を見つけた子が、走ってジャンプをすると他の子も真似をして築山を行き来していく。

その後は、砂山に寝転がって滑る等、全身で砂の感触を楽しんでいる姿があった。



一人の子が、「砂の中が冷たいよ」と言うので大人と一緒に穴を掘って手を入れてみる。

子どもが「冷たい！」と言うので大人も手を入れて「冷たい！」と言うと、それが楽しくて何回か同じやり取りを行う。他の友だちも呼び一緒に同じ反応を楽しむ。大人が「もっと奥まで掘ったら温かいかな？」と声掛けをすると子どもたちがそれぞれ手で穴を掘る。

「まだ冷たいよ」「もう掘れないよ」と言っていたところで大人がスコップで穴を掘る。

手を入れても掘った奥まで届かなかったので、足を入れてみる。友達と一緒に入っていたことで「あったかいね」「お風呂みたいだね」と言い、笑いあう姿があった。「お布団みたいににして」と言うので足の上に砂をかけていくと「気持ちいいね～」と言っていた。すると一人が

「うんとこしょ、どっこいしょ」と言って引っ張るので、大人や他の子どもたちも一緒に抜く真似をして絵本“おおきなかぶ”の物語遊びを楽しんだ。



＜振り返り＞

- ・園庭に出たとき、大人がすぐに遊びの展開や声掛けをせずに子どもたちが砂の感触を楽しむ時間を作っていた。子どもたちが満足するまで感触遊びを楽しんだ後、子どもの気付きから大人が遊びを広げていくことで、より興味を引くことができるのではないかと考えた。
- ・最近、公園でも物語遊びをすることが多く、絵本の世界とつなげて楽しむ姿が見られていた。子どもたちが好きな遊びと結び付けていくことで、更に砂に親しみを持って遊ぶことができていた。
- ・築山が砂場以外に2つ出来たことで、山から山まで追いかけてっこをしたり、遠くの友だちを呼んだり等、体を動かす遊びが増えていった。
- ・次は、園庭に一本橋やタイヤを置き、大人がねらいを持った設定を組み、子どもの様子を見て遊びを展開していく。